

■ 人生は靈的成長の旅

地上生活の目的は、日常生活を通して得られる悟りによる**靈性進化**です。お金や物を蓄えたり、名声を得ることには何の価値もありません。

あなたの中の神様を少しでも大きくすること、それが地上生活の目的です。次の世界、靈界での生活にそなえて、最低限の靈的資質を成長させることです。

何の苦勞もない人生ならば、あなたはきっと喜びも楽しみも感じないでしょう。哀しみを知るから希望を知り、憎しみを知るから愛を知ります。あなたの人生は何一つ無駄がなく、すべて価値あるものです。どんな人生であっても、すべて素敵な人生なのです。

■ 永遠の生命の道

すべてにおいて死は存在しません。あるとすれば、形態の変化です。あなたが死んでも、それは肉体の崩壊を意味するだけであり、すでにある代わりの身体によって生き続けます。

あなたの個性が無になって消えることはありません。それゆえに、罪がいきなり消えることも、愚者が死んだ瞬間に賢者になることもありません。

しかし、いつか愚者も賢者になるのです。永遠に死なないというこ

とは、永遠に成長し続けるということです。誰一人として見捨てられないのです。

■善性を高める

霊性の進化、すなわち神の性質をより多く発揮するとは、善性を高めることです。善悪の程度は各人によって異なりますが、良心に忠実であればよいのです。

人は成長すると、おのずと良心に忠実になり、善悪の価値観も崇高、高尚になっていきます。霊性と**道徳**を切り離して考えることはできません。すべて道徳に関係します。

自身に厳しくあり、他者に優しくありなさい。あなたのはしいことを他人にもしてあげなさい。優しい思念、優しい言葉、優しい行為を心がけなさい。自分の心を静め、愛の気持ちを抱くだけで、周りには幸せになるのですよ。それ以上の善はありません。

■神の発見

神がいないと嘆く人よ、そうです、いないのは当然です。あなたが神なのですから。

あなたの中の神様は、あなたが神のように振る舞い、人々に尽くす

ことを待っているのです。それを知ったとき、あなたは自身の心の中に神を発見します。

神とは靈のこと、生命であり宇宙の完全なる根源的素材であり、すべてです。その一部があなたの中に眠っています。神は内にあり、外にもあります。どこにでもあるのです。全宇宙、物的宇宙と靈的宇宙のすべてに神が存在します。

■神とは法、人は神の子

神は法であるといわれます。法則を愛をもって動かしている無限の叡智ある存在です。自然力であり法則であり、それ以上の存在であり、神なくしてすべては存在しません。

そして、神もまた人なくして存在しえないのです。人は神の子であり、**神の表現媒体**です。人の中には、神の全属性が未完成の胚芽の状態です。眠っており、それを少しずつ大きくすることで人間性を増し、進化していきます。

神の属性は、完全なる善であり完全なる愛だといわれます。私たちが善い行いをしたとき、それは**神が自分を通じて表現されている**のです。

ある段階にまで至ると、類魂との意識の共有化が始まり、何百人、何千人、あるいは数億人以上で一つの**総意識**として存在するようになり

ます。それが神の意識と呼ばれるもので、生命が一つである証でもあります。そこまで到達した人間は、まさに神のごとく、惑星の創造や魂の創造を行えるようになるそうです。

人は神に近づく宿命を与えられているのです。人は神、人はミニチユアの神です。

■他の星にも人間はたくさんいる

人間とは、**物的生活を通して永遠に進化する霊のこと**であり、地球人類以外にもたくさん存在しています。一見するとモヤや霧状のものに生命が宿り、高度な知的活動を行っています。木星にも金星にも、そして太陽にもおり、太陽系以外にもたくさん存在しているそうです。

そして、地球は太陽系で二番目に進化の遅い星といわれ、他の星の人間にかなり迷惑をかけているようです。すべての謎はバイブレーション、振動数にあるのです。同じ振動数にあるものは見え、振動数が変化すると見えなくなります。

※人が進化していくと、物質性が少しずつ希薄になり、エーテル質に近づきます。霊ほど精妙ではないですが、徐々に霊との境目がなくなっていく、物質の世界でもかなり自由度が増していくそうです

映画のエイリアンのようなものを単純に宇宙人と思っではいけません

んが、仮にそういう形態の人間がいたとしても、地球よりも靈的に上の段階にいれば、彼らは愛に満ちており、困っている人を助けることに生きがいを感じる人々でしょう。

形態は関係ありません。どれだけ愛を顕現しているかだけです。

■人は今も靈であり、靈界に住んでいる

人間は、肉体、精神、靈の三つの次元に同時に存在しています。肉体の目で見えるのは物質界ですが、育てている幽体、靈体は同じ振動数の世界に共鳴しています。

つまり、こうしている今も人は靈であり、靈界に住んでいます。地上の人間は、あくまで**肉体を持つ靈**であり、その逆ではありません。死んでから靈になるわけではありません。今この瞬間、生まれたとき、生まれる以前から靈的存在です。

肉体はあくまで靈、本当のあなたの道具なのです。ですから、常に靈的法則を重視しなくてはなりません。物的なものは、靈的なものの外皮にすぎません。

■大切な日常生活

すべては日常生活にあります。どんなささいなことも、偶然で起こ

ることはありません。起こった出来事にどんな反応をするか、どう対応していくか、それだけです。

「見返屈に思える日常は、実は恐るべきメカニズムで動いています。なぜそのことが起こったのか、何が悪かったのか、素直に教訓を学ぶことが肝要です。

失敗して悔やむこともあるでしょう。恥ずかしく思うこともあるでしょう。それもすべて経験です。その次はうまくやれるはずです。仮に失敗しても、また次があるのです。

■神は絶対に平等

人が地上に生まれてくる意味はいくつかあります。カルマの清算、類魂への体験の還元、特定の資質の発達、物的世界の向上などですが、魂が生まれる過程で、最初に自我が芽生えるのが地上なのです。それは、神が与えた最初の自由意志の行使の場です。

神は絶対的に平等ゆえに、誰一人としてひいきも優遇もいたしません。すべてを平等に愛するためには、したくてもできないのです。善いことも悪いことも、自分がやったことをそのまま受け取らねばなりません。愛を与えれば愛を受け取り、痛みを与えれば痛みを受けます。

戦争や貧困は人が生み出すものであり、その行為の結果を自ら受け取

っています。好き勝手やっておいて、責任だけは取りたくないと言っても、それは許されないのです。

神は人が自ら神になることを願っているといわれます。つまり、あなたが自らの意思で愛の人生を歩むことを望まれています。あなたがすべてに愛を与えれば、愛の結果だけを受け取ることになります。愛の結果は、平和であり調和であり、幸福です。

■神の王国とその義を求めよ

あなたにとって正しいことは良心が教えてくれます。良心こそ、あなたの中に眠る神の声であり、神が人間に与えた監視装置だといわれます。心を静かにして今の状況を考えたとき、これが正しい、という確信が芽生えるでしょう。

どんなに困難な道でも、それに素直に従いなさい。地上で報われずとも、**天では必ず報われます**。あなたにしかできないことがあるはずですよ。

この言葉には、瞑想による自己修練の意味も含まれています。あなたが求めるものが何であれ、まずは神を求めるのです。神は法則です。法則に調和しようと生きれば、あらゆることが改善されていきます。そのために、まずは自己統御が大切なのです。いかなるときも心静か

でありなさい。

■背後霊団の存在を知る

神は、人間が地上生活を送るにあたって、守護の霊団をつけています。いわゆる、**守護霊**、**背後霊**と呼ばれる存在で、あなたの言動のすべてに干渉しています。

人類が発祥した当初は、他の惑星から来た進化した人間や天使が守護に当たったそうですが、地球人類が増えてきたことから、だんだんと人間の霊に守護を任せるようになったといえます。

彼らはあなたに**インスピレーション**を与え、「**気づき**」によって影響を与えています。ふと何かしたくなったとき、普段はしない行動をしたときは、たいてい彼らの影響です。

霊はもともと一つなので、各靈魂は融合する性質を持っており、あなたの考えの七〇八割は、背後霊、特に守護霊の性質の影響を受けています。その中でも、善行や慈愛に関するものは、間違いなく守護霊の感化なのです。

また、彼らは実生活のすべてにおいて**援助**を行っています。仕事を見つげるとき、実際の仕事の内容を含めて、そのすべてを助けています。

筆者のようなクリエイター系の人は、成長にあわせて専門の指導霊が

付き、新しい技能の開発をしてくれるわけです。

これはとても重要なことなのです。知っていると知らないとは、援助の質も大きく変わってきます。彼らの存在を常に意識することで、背後霊団も仕事がしやすくなるのです。世の中に偶然はありません。すべては調整され、制御されています。常に守護霊に守られているという意識を持つことで、守護の力を得ることができるようになります。

かといって、人間は操り人形ではありません。自由意志が与えられています。背後霊は強制することはなく、あなたの意思を尊重します。そのため、悪の道に走ろうと思えば走ることができます。その場合、一時的に彼らはあなたを好きにさせておいて、教訓を学ばせることがあるのです。そのときは、他の低級霊の「団にあなたは操られることになりません」。

どちらにせよ、人間は霊の影響なくして動くことはないのです。それは、生命が一つであることが証明しています。

■すべてが善に向かっている

世の中を見ると、間違ったこと、残酷なことばかりがあふれて見えますが、これすべて善への道です。世界のシステムは作用と反作用、二面性によって展開し、進化するようにできています。闇があるから光

がわかるように、悪があるから善がわかります。悪は反面教師にもなり、善を際立たせることができます。

神の法は、**すべての悪を善のために利用**しています。世の中に偶然は存在しない以上、巻き込まれる側もカルマの清算が行われているのです。仮にあなたに何の負債もなければ、自らに災いは降りかかりません。

すべて善のため、すべて人の進化のため。自ら善に憧れる人間が一人増えるごとに、この星は上昇していきます。

■霊の常識は「愛」

神は愛です。この世のすべてを観察していると、**進化は愛に向かって動いています**。愛とは、親切であり寛容であり、情愛であり、我慢でもありません。しかし、本当の愛とは、**霊から発せられる生命そのものへの深い愛情**です。

無条件でハートからあふれる**光**であり、すべてに与えるものです。地上においても霊界においても、進化の指標は愛の深さです。愛は叡智をもって正しい愛となり、すべてを動かします。

毎日善行を心がけなさい。損得より徳を得ようとしなさい。人のためになることを見逃してはいけません。

■すべてに報いがある

神が法則である以上、その効果は**機械的**に作用します。どんなささいな善行も見過ごされることはなく、すべてに報いがあります。あなたが善に憧れ、善に対して行ったすべての思念、行為、努力は記録され、それにふさわしい結果が自動的に与えられます。

諦めず、それでいながら静かに善行に励んでください。物的に困っている人には物を、疲れている人には慰めの言葉を、言葉が通じない人には、あなたの優しい思念で包んであげてください。

どんなに小さな善行でも、天においては、それが百倍になって返ってくることでしよう。そうして日々、あなたは神に近づいていきます。

■最高の生き方

人は神を表現する媒体です。その神の最高の顕現が、**他人のために自己を犠牲にする行為**です。動物にはこれはできません。内在の光、神性、神の火花を宿した人間だからこそ可能なことです。

霊性が進化していくと、自己のことよりも他者を優先するようになります。ただただ与えることに喜悦を覚えるようになるのです。自分を通して神が顕現することに最高の幸せを感じます。そのときこそ、

あなたは神そのものとなっているのです。

最高の生き方とは、自己よりも他人を優先する**利他愛**を持ち、物的なものよりも霊的なものを優先する、**精神修養生活**です。

■幼子のように純粹であれ

天国とは、我々が考えるよりはるか先にあるもののようなのです。地上のすべての美が集まる**靈界**ですら、その途上でしかありません。その天国に至るには、**幼子のように純粹**でなくてはならないのです。

今、世の中では知性の高さ、頭脳力を競っていますが、それらはさして価値はありません。それよりは、優しく穏やかで、謙虚で**素直**であることが肝要です。

人の魂は一度地上の物質にまみれ、個性を得ます。その過程で、どうしても自我を強化するためにかたくなになったり、傲慢になったりしますが、成長していくと素直になっていきます。素直な魂が早い成長を遂げます。

頭がよいとか地位が高いとか、そんなことにかまけてはいけません。困っている人に同調し、その気持ちがわかるようになりなさい。幼子のようにすべてに好奇心を抱き、すべてに感嘆し、素直に従う者が高みに昇ります。

■ 霊的真理は道德の保証

この世でもっとも恐ろしい思想は、唯物思想です。もしも地上だけで生命が終わるとすれば、道德を保証するものがなくなります。なぜ、優しくしなくてはならぬのか、寛容であらねばならないのか、なぜ生きるのか、そのすべてがわからないことになります。

世界のシステムを知るとは、**道德を保証**することにつながります。子供たちに、なぜ道德を守らねばならないのかと問われたとき、すべて説明することができます。道德の実践こそが唯一、神に至る道、幸せになる道なのです。

神は愛です。人は神です。ならば、人の本質は愛です。誰もが愛に向かって進化していく仲間なのです。だからこそ、誰一人として見捨ててはいけません。彼、彼女は、もう一人のあなたなのですから。

■ あなたは他者と一つ

地上では、他者と分かれているため、どうしても全員で一つの生命とは思えないかもしれません。しかし、すべての人間が互いに影響しあっているのです。

あなたが発した想念の一つ一つが他者に**影響**を与えます。子供が質の

悪い環境で誤った概念を覚えるように、あなたの悪想念の一つ一つが他者を攻撃し、自らを低い場所におとしめているのです。これは法であり、相手が自分であるがゆえです。

常に美しい想念を出すようにいたしましょう。美に憧れ、理想を抱き、ただただ愛を発露しようと心がける。それだけであなたの周りの世界は変わります。世界とは、自らの想念で生み出すものなのです。

■欲しいものが与えられる

いかなる宗教もその本質は同じです。その時代の理解力に合わせて調整された霊的知識の一端です。よけいな形式は排除して、その中身だけを見るべきです。そして必ず、自分に合うものが存在します。

本屋がよい例です。そこにさまざまな本があれど、その他のジャンルのものは気にせず、自分が求めるものを探すでしょう。あなたのレベルに応じたものが、この世には必ずあるものです。そのように欲しいものが与えられます。

■悟りは霊的体験によって得られる

すべてのものには、**物的、精神的、霊的**なものがあり、おのおの感じる器官が異なります。

たとえば、本自体は物質ですが、その中身を理解するのは精神です。愛や勇気を持ってといわれますが、それを感じるのは心なのです。それと同じように、霊的なものを感知するのは、人間の霊的な器官なのです。

悟りとは内的なものであり、霊的な独自の体験です。あなたが望んでも、それを他者に分け与えることはできません。無理に伝えても、まったく価値のないものに成り下がります。

肉体の目をもってしても、誰一人として同じものを見ているわけではないのです。一人ひとりによって見ている世界はまったく異なります。それを言葉に表現することは不可能です。あなたが感じたものを大切にしてください。

■物的な体験と霊的な体験

すべての人は、日常の物的な体験から得られる喜怒哀楽によって成長していきます。その小さな積み重ねが**人格を形成**します。霊性とは、いわば**人間性**なのです。

その次に、ある程度の段階に至ると**霊的な体験**が訪れます。これを**魂の大イニシエーション**、**通過儀礼**と呼びます。それによって**霊的な体験**を積み重ね、**魂の覚醒**および**拡大**が起こっていきます。まだ物的な段

階にいる人は、この霊的な体験を感得できません。

どんなに知識を得ても善性が高くない人がいるように、知性の高さは霊性とは必ずしも一致しません。今は知性だけが特化してしまい、心の成長が遅れている**頭でっかちの時代**だといわれます。頭だけでは本質には届かないようです。

■優れた魂も目がふさがっている

神は、すべての人間に対して **一生に一度は霊的真理を知るチャンス**を与えるといます。それでも現段階では、理解できない人も数多くいるでしょう。

が、霊的な目が開かれていないからといって、その人が未熟というわけではないことがあります。それがその人の地上での仕事にとって有意義なこともあるのです。

たとえば、その使命がより物質的なものであった場合、霊的な事柄を知ることによって戸惑いを与えたり、仕事への苦痛が増してしまいます。知らないことは、その人にとっては慈悲なのです。その人のカルマと使命を理解することが大切です。

我々にカルマや魂の情報が見えない以上、寛容でなくてはなりません。神はすべての人間に仕事を与えています。あなたから見て気に食

わなない仕事でも、神から見れば十分立派な仕事なのです。

■覚醒した魂に訪れる罫に注意を

魂が覚醒した人が注意すべきことは、自尊心の増長です。霊的な知識を得る段階にまで至ることと、霊性の高さはけっして比例しません。むしろ、**自己犠牲への誇りや陶醉**が慢心につながることもあり、他者への批判ばかりに目を向けると、自らの霊性を下げることになります。

まずは人格の向上、自己鍛錬が重要です。他人の未熟さを指摘する前に、自らの不完全性の改善に努めるべきです。口を統御し、愚かな言動を慎み、心静かに自己統制を心がけましょう。そして、これもまたイニシエーションの一つです。

■冷静であれ

すべての力は**静寂**から生まれます。心穏やかで冷静であればあるほど、その人は強い力を行使できます。静かであることは、それだけで意味あることです。冷静でありなさい。平静でありなさい。怒りで身を焦がしてはいけません。

静寂の中にあるとき、人は物質を制御することができます。一番身近な物質とは、**肉体**です。**肉体の統御**ができるようになって、ようやく

他者への奉仕ができます。

■限界はない

生命は永遠であり、人も永遠に進化し続けるのならば、その成長も無限です。あなたが望む望まぬにかかわらず、霊は進化し続けます。人の宿命とは、永遠に神に向かって歩み続けることなのです。それだけはどうやっても止めることはできません。

大切なことは、常に求める姿勢です。物的なものに限りはありませんが、霊的成長に限界は存在しません。限界を決めた瞬間、それこそが自分の限界です。